

心輝け 子どもたち!

人権週間にむけて

12月4日から10日の1週間は、「人権週間」として位置づけられています。この週間を受けて、道德の時間に、「思いやり」、「信頼・友情」、「男女の協力」、「公正・公平」、「正義」、「国際理解と親善」等の指導内容を扱った実践を行ってみたいかがでしょうか。

小学校6年「知らない間の出来事」 2-(3)信頼・友情
出典：小学校道徳読み物資料集(文部科学省)
(文部科学省ホームページよりダウンロードできます)

資料の概要

転入生のあゆみは、みかにメールアドレスを教えてくださいと言われましたが、携帯電話を持っていません。みかがクラスの友人にメールに書いて送ったところ、「あゆみは、仲間外れにされて転校してきたらしい。」という内容に変わっていました。翌日事実を知ったみかは、あゆみの家に電話をかけました。

指導のポイント

同じ出来事が、二人の回想によって構成されているので、両者の立場から考えさせることができる資料です。深く考えずにとった行動が、自分の知らない間に相手を傷つけてしまうこともあるという点をおさえ、友人関係の在り方について考えさせることができます。あゆみとみかの両者の立場から全体を把握した上で、それぞれの立場に立って話し合う場面を用意するなどの展開が考えられます。

情報モラルの内容を含んだ資料ですが、携帯電話の使い方の指導にならないよう留意し、みかがあゆみと友達になろうとしたために起きた出来事であることに焦点をあてるとよいでしょう。

中心発問例

みかさんは、どんなことを思いながら、あゆみさんからもらった電話番号のメモを見ていたのでしょうか。



中学校3年「六千人の命のビザ」 4-(10)国際理解, 人類愛
出典：明るい人生(県教振)

資料の概要

第二次世界大戦中、リトアニア領事館で働いていた外交官・杉原千畝氏は、ナチスの手を逃れてきたユダヤ人が、日本通過のビザを求めて領事館を囲んでいる様子を目にします。この人々を置いて逃げることはできないと考えた杉原氏は、日本国政府の方針に反して、領事館を撤退するその日まで手書きのビザを発行し続けました。

指導のポイント

外交官としての立場に悩みながらも、同じ人間として困っている人を助けようとした主人公の姿勢から、人類愛とは何かを考えさせることができる資料です。それぞれの場面における主人公の判断や決断の方法、実践する行動力に焦点をあて、生徒が受ける感動を大切にしたいと思います。特に、ビザの発行をするべきか、やめるべきかと悩む場面を中心に、じっくりと主人公の気持ちに迫らせるとよいでしょう。また、ビザの発行を決断したあとの主人公が自分自身の判断をふり返る場面などをきっかけとして、生徒自身が人としてのよりよい生き方を考えられるようにするとよいでしょう。



中心発問例

外務省から「ビザの発行はならぬ。」という電報を受けたとき、杉原さんはどんなことを思ったのでしょうか。



◆◆研究発表会のお知らせ◆◆

1月31日(火) 14:45~
教育館 講堂
ぜひご参加ください!

コラム

心のアンテナ

子どもたちの成長

鳴子台中学校長 加藤 芳英

本年度、6名の教育実習生が来ました。その中の一人の実習生から、「先生はなぜ教師になられたんですか。」という質問を受けました。私は、咄嗟に「子どもが好きだから。」と答えました。私の場合、咄嗟に出てきた言葉「子どもが好きだから。」が、教師としての原点になっていると思っています。

目の前にいる子どもたちがだんだんと大人になっていく過程に、教師としてかかわることができることを大変うれしく思っています。また、子どもたちが一人の人間として成長していくことに最も影響を与えるのが、「道德の時間」であると考えています。「道德の時間」は、子どもたちが自分の生き方について考える時間です。ここには、「正解」というものはありません。自由に考え、他の人と比較し、自分の生き方を振り返り、人間としての自分を成長させていきます。そういう時間であるからこそ、「道德の時間」を大切にしたいと思います。

学習指導要領には、道德教育の目標として「道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う」と記されています。子どもたちに自分の生き方についてより深く考えさせることができる適切な資料や指導法に目を向けましょう。例えば、昨年ヒットした「トイレの神様」、今年大活躍した「なでしこ JAPAN」などを資料として用いてみたり、「道徳プリント」「グループでの話し合い活動」「役割演技」「ゲストティーチャー」などを活用した指導法を取り入れたりなどです。とにかく、子どもたちの本音を引き出し、生き方を考えさせましょう。

授業づくり研究部会

授業研究 「指導方法の工夫を生かした授業づくり」

10月26日(水)に、「祭りの日の拾い物」(明るい心5年)を資料として、授業づくり研究部会の授業研究が行われました。主人公の後ろめたい気持ちを感じ取らせるために動作化を取り入れたり、資料に書いていない場面を取り上げた発問をしたりして、子どもたちの「気づき」の中にある「友達との考えの違い」や「自分とのかかわり」に焦点を当てて、研究を進めました。

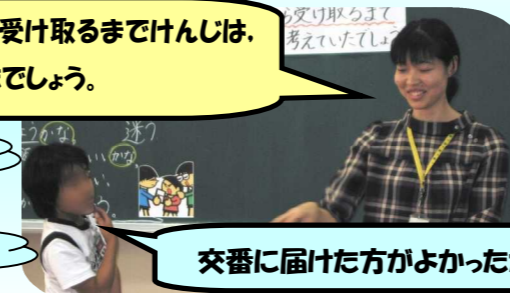
友達との考えの違いから「気づき」を広げる

たこ焼きを注文してから受け取るまでけんじは、どのようなことを考えていたでしょう。

使っちゃっていいのかな。

落としたり人困ってないかな。

交番に届けた方がよかったかな。



自分とのかかわりから「気づき」を広げる

拾ったサービス券で買ったたこ焼きは、どんな味だと思いますか。

自分の券で買った方がおいしい。悪い気持ちがあるから。

あまりおいしくない。人のお金を使っていることと同じことだから。

